



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月7日

上場会社名 株式会社ダスキン 上場取引所 東
コード番号 4665 URL <https://www.duskin.co.jp>
代表者 （役職名） 代表取締役 社長執行役員 （氏名） 大久保 裕行
問合せ先責任者 （役職名） 執行役員 経営企画部長 （氏名） 井出 文晴 TEL 06-6821-5071
半期報告書提出予定日 2025年11月13日 配当支払開始予定日 2025年12月8日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年3月期中間期	95,078	3.7	4,691	19.5	6,569	19.4	4,248	21.7
2025年3月期中間期	91,727	6.9	3,924	33.1	5,503	34.1	3,490	31.8

（注）包括利益 2026年3月期中間期 4,875百万円（111.2％） 2025年3月期中間期 2,308百万円（△52.4％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	90.47	90.45
2025年3月期中間期	72.98	72.96

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年3月期中間期	201,190	153,674	76.2
2025年3月期	203,318	151,542	74.4

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 153,348百万円 2025年3月期 151,197百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	50.00	—	62.00	112.00
2026年3月期	—	50.00			
2026年3月期（予想）			—	65.00	115.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	195,000	3.3	7,900	8.7	11,600	8.4	9,000	2.2	191.72

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規 1社 (社名) 株式会社ダスキンサーヴ南関東

除外 3社 (社名) 榮清香港有限公司、健康菜園株式会社、株式会社美食工房

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P.9「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年3月期中間期	48,000,000株	2025年3月期	48,000,000株
2026年3月期中間期	977,459株	2025年3月期	1,055,752株
2026年3月期中間期	46,967,442株	2025年3月期中間期	47,823,472株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(中間期)

※第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結包括利益計算書	8
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(継続企業の前提に関する注記)	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間(2025年4月1日～2025年9月30日、以下「当中間期」という。)の我が国経済は、雇用・所得環境の改善を背景として緩やかな回復基調で推移したものの、依然として物価は高い水準で推移し、米国の関税政策の影響等、景気下振れリスクは高まっており、先行きは不透明な状況となっています。

そのような環境の中、当社は、「新たな事業への新化」「周辺事業への進化」「既存事業の深化」とそれらを後押しする企業風土の醸成を目指す長期経営戦略「Do-Connect」の第1フェーズ「中期経営方針2028」(2026年3月期～2028年3月期)をスタートさせました。

訪販グループにおいては、レスキューサービス事業(鍵の交換や修理等に対応)の加盟店募集を7月より開始したことに加え、レントオール事業(日用品・イベント用品等のレンタル)では、警戒の高まる大規模災害への防災・減災に対し、地震による建物倒壊現場等での救助・医療活動を実践的に学べる新たな訓練設備「Rescue Training Module®」のレンタルを開始する等、社会価値創造への取り組みにも注力しました。

2025年1月に事業開始から55周年を迎えたフードグループ主力のミスタードーナツは、これまでの取り組みは変わらず継続しつつも、更に「あたらしい」挑戦を続けることをステークホルダーの皆様にお約束すべく、新スローガン“いつもあるのに、いつもあたらしい。ミスタードーナツ”を掲げました。

また、事業開発に向けた取り組みとして、冷凍宅配弁当の「nosh(ナッシュ)」等を運営するナッシュ株式会社(本社：大阪府大阪市、社長：田中 智也)と2025年7月に資本業務提携契約を締結し、発行済み株式の一部を取得いたしました。

当中間期は全てのセグメントで増収となり、連結売上高は前年同期から33億50百万円(3.7%)増加し950億78百万円となりました。利益面につきましても各段階で増益となり、連結営業利益は前年同期から7億66百万円(19.5%)増加し46億91百万円、連結経常利益は持分法による投資利益が増加したことに加え、前中間期に発生した棚卸資産評価損が当中間期に発生しなかったこと等により、前年同期から10億66百万円(19.4%)増加し65億69百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期から7億58百万円(21.7%)増加し42億48百万円となりました。

(単位：百万円)

	前中間期 (2025年3月期中間期)	当中間期 (2026年3月期中間期)	増 減	増減率 (%)
連結売上高	91,727	95,078	3,350	3.7
連結売上総利益	40,971	42,180	1,208	3.0
連結営業利益	3,924	4,691	766	19.5
連結経常利益	5,503	6,569	1,066	19.4
親会社株主に帰属する 中間純利益	3,490	4,248	758	21.7

<セグメント毎の状況>

セグメント別売上高

(単位：百万円)

	前中間期 (2025年3月期中間期)	当中間期 (2026年3月期中間期)	増 減	増減率 (%)
訪販グループ	53,743	55,609	1,865	3.5
フードグループ	31,168	32,420	1,252	4.0
その他	8,241	8,420	178	2.2
小計	93,153	96,450	3,296	3.5
セグメント間取引消去	△1,425	△1,371	53	—
連結売上高	91,727	95,078	3,350	3.7

(注) 各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

セグメント別営業利益

(単位: 百万円)

		前中間期 (2025年3月期中間期)	当中間期 (2026年3月期中間期)	増 減	
				増減率 (%)	
	訪販グループ	3,073	2,572	△501	△16.3
	フードグループ	3,754	5,229	1,474	39.3
	その他	313	368	55	17.6
	小計	7,142	8,170	1,028	14.4
	セグメント間取引消去 及び全社費用	△3,217	△3,479	△261	—
	連結営業利益	3,924	4,691	766	19.5

(注)各セグメントの営業利益は、セグメント間の取引を含んでおります。

①訪販グループ

訪販グループは、主力のクリーンサービス事業(ダストコントロール商品のレンタルと販売)が減収となったものの、ケアサービス事業(役務提供サービス)他、その他の事業は増収となり、売上高は前年同期から18億65百万円(3.5%)増加し556億9百万円となりました。一方営業利益は、2025年2月から発売を開始した「ケース付きモップクリーナー」が計画を上回る出荷となったことで、原価が上昇(フランチャイズ加盟店に初めて出荷する際に原価を一括計上し、その後、レンタル契約に応じて月々の売上を計上する仕組み)したことや人件費、販売促進費等の費用が増加したことにより、前年同期から5億1百万円(16.3%)減少し25億72百万円となりました。なお当社は、2025年4月13日から2025年10月13日に開催された「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」会場内清掃及び個別パビリオンの清掃や衛生商品の提供等を受注したことで、業績に寄与しました。

訪販グループ主力のクリーンサービス事業は、家庭向け、事業所向けともに減収となりました。

家庭向けの売上を商品別に見ますと、計画以上の出荷となっている「ケース付きモップクリーナー」に加え「ペット用おそうじモップセット」も引き続き好調を維持したものの、主力商品であるモップ商品売上は全体では減少しました。一方で、新商品の「ファインバブル浄水シャワー」の売上寄与や消火器の使用期限到来に伴う切替需要によって売上が増加したこと等により、家庭向け売上全体の減収幅は前年同期に比べて縮小しました。

なお、前期に引き続き活動に注力している営業専任活動につきましては、新規獲得件数が前年同期と比較して増加しております。

事業所向けの売上においては、抗ウイルス機能付帯商品等の高機能マットが引き続き好調に推移したものの、主力のマット商品全体の売上が減少したことやモップ商品売上が前期並みとなったこと等により、事業所向けの売上全体では前年同期を下回りました。

ケアサービス事業につきましては、お客様売上が増加した結果、ロイヤルティ収入、薬剤、資器材等の売上が増加し増収となりました。お客様売上がサービス別に見ますと、「サービスマスター」(プロのお掃除サービス)では、エアコンクリーニングや事業所施設の日常清掃サービスが好調に推移し、「メリーメイド」(家事代行サービス)では、お掃除おまかせサービスが好調に推移しました。また「ターミニックス」(害虫獣の駆除と総合衛生管理)はベストコントロールサービスが好調に推移した他、「トータルグリーン」(緑と花のお手入れサービス)については、猛暑時期の早期化・長期化等により雑草関連サービスが好調に推移しました。「ホームリペア」(住まいのピンポイント補修)についても前年同期を上回りました。

訪販グループのその他の事業につきましては、イベントの受注が増加し増収となったレントオール事業に加え、高齢社会において需要が拡大しているヘルスレント事業(介護用品・福祉用具のレンタルと販売)、ライフケア事業(ご高齢者の暮らしのお手伝い)が増収となった他、化粧品関連事業、ユニフォーム関連事業、レスキューサービス事業も増収となりました。

②フードグループ

フードグループは、主力事業であるミスタードーナツの全店合計お客様売上が増加し、原材料売上、ロイヤルティ売上が増加したこと等により、売上高は前年同期から12億52百万円(4.0%)増加し324億20百万円となりました。利益面につきましては、増収に伴い売上総利益が増加したことに加え、前期中の価格改定等により原価率が改善したこと等で、営業利益は前年同期から14億74百万円(39.3%)増加し52億29百万円となりました。

ミスタードーナツは、2024年末の「ミスド福袋」の販売数減少に伴う引き換えカード使用顧客の減少影響があったものの、前期中の価格改定効果等により、お客様単価が前年同期を上回ったことや新規出店による店舗数の増加で、全店合計お客様売上も前年同期を上回りました。第1四半期は宇治茶専門店「祇園辻利」とのコラボレーション商品や「もっちり食感」が特長の新食感ドーナツ「もっちりん」を55周年記念商品として期間限定で販売しました。特に「もっちりん」はお客様からの反響が大きく売上増加に寄与しました。第2四半期は、創業時から販売していた商品「ホームカット」を時代に合わせて改良し、55周年記念商品「ニューホームカット」として8月に発売、毎秋恒例の「さつまいもド」、栗のドーナツ「くりド」、人気菓子とコラボレーションした「MI SDO HALLOWEEN×ブラックサンダー」等もお客様からの支持を得ました。

フードグループのその他の事業につきましては、とんかつレストラン「かつアンドかつ」は、ほぼ前期並みの水準を維持、2024年1月に子会社化した株式会社バストンハウスは、その主力業態であるイタリアンレストラン「ナポリの食卓」が好調に推移し、増収となりました。

③その他

国内からの海外向けドーナツ原材料売上の減少等により海外事業が減収となったものの、国内連結子会社のダスキン共益株式会社(リース及び保険代理業)は前期並み、株式会社ダスキンヘルスケア(病院施設のマネジメントサービス)は増収となったことにより、その他全体の売上高は前年同期から1億78百万円(2.2%)増加し84億20百万円、営業利益は前年同期から55百万円(17.6%)増加し3億68百万円となりました。

海外事業につきましては、中国でダストコントロール商品のレンタル・販売を展開している楽清(上海)清潔用具租賃有限公司は減収となりましたが、マレーシアを中心にドーナツ事業を展開しているBig Appleグループは、商品フェアが好調なことに加え新規出店による店舗数増により前年同期の売上を上回りました。海外向けの原材料等の売上につきましては、香港向けドーナツ原材料売上が増加した一方、台湾向けはドーナツ原材料、マット売上ともに減少し、海外事業全体では前年同期を下回りました。

(2)当中間期の財政状態の概況

当中間連結会計期間末における総資産残高は、2,011億90百万円となりました。前連結会計年度末(以下「前期末」という。))と比較して21億28百万円減少しております。その要因は、有価証券が32億89百万円、現金及び預金が19億55百万円減少したことに対し、投資有価証券が19億98百万円、無形固定資産その他が16億77百万円増加したこと等であります。

負債残高は475億15百万円となり、前期末と比較して42億60百万円減少しております。その要因は、未払金が22億35百万円、賞与引当金が6億77百万円、未払法人税等が5億92百万円減少したこと等であります。

純資産残高は1,536億74百万円となり、前期末と比較して21億31百万円増加しております。その要因は、利益剰余金が13億27百万円、その他有価証券評価差額金が11億41百万円増加したこと等であります。

(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期(2025年4月1日～2026年3月31日)通期の連結業績予想(連結・個別)につきましては、当中間期の売上高動向及び原価動向や経費使用状況を勘案し、下半期業績予想を見直した結果、2025年5月15日に公表した従来の予想を変更しておりませんが、セグメント別の業績予想は以下のとおり変更いたします。

訪販グループは、当中間期の売上高動向に加え、「ケース付きモップクリーナー」の出荷が期初の計画を上回る傾向が今後も継続することで原価が上昇する影響等を織り込み、売上高、営業利益ともに下方修正、フードグループは、主力のミスタードーナツにおける当中間期の業績動向を基に見直し、売上高、営業利益ともに上方修正、その他においては、売上高のみ上方修正、全社費用につきましては、一部未使用となる経費を業績予想修正に織り込んでおります。

通期連結業績予想につきましては、今後、修正の必要が生じた場合、速やかにお知らせいたします。

(単位：百万円)

			通期予想		
			2025年5月15日 公表①	2025年11月7日 ②	修正額 ②-①
連結	訪販グループ	売上高	112,000	111,700	△300
		営業利益	6,700	5,500	△1,200
	フードグループ	売上高	68,700	68,900	200
		営業利益	8,600	9,400	800
	その他	売上高	16,900	17,000	100
		営業利益	550	550	—
	セグメント間 取引消去及び 全社費用	売上高	△2,600	△2,600	—
		営業利益	△7,950	△7,550	400
		売上高	195,000	195,000	—
		営業利益	7,900	7,900	—

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,096	16,140
受取手形、売掛金及び契約資産	11,370	11,996
リース債権及びリース投資資産	1,040	1,006
有価証券	7,988	4,698
商品及び製品	8,388	8,697
仕掛品	295	335
原材料及び貯蔵品	3,179	3,366
未収入金	7,809	7,602
その他	2,441	2,273
貸倒引当金	△16	△12
流動資産合計	60,594	56,105
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	47,723	48,045
減価償却累計額	△33,438	△33,956
建物及び構築物（純額）	14,284	14,089
機械装置及び運搬具	29,029	29,291
減価償却累計額	△20,643	△21,054
機械装置及び運搬具（純額）	8,385	8,237
土地	22,441	22,423
建設仮勘定	804	874
その他	17,754	15,890
減価償却累計額	△13,510	△12,108
その他（純額）	4,243	3,781
有形固定資産合計	50,160	49,407
無形固定資産		
のれん	279	334
ソフトウェア	5,659	5,010
その他	3,075	4,752
無形固定資産合計	9,014	10,097
投資その他の資産		
投資有価証券	69,509	71,507
長期貸付金	0	0
退職給付に係る資産	6,624	6,727
繰延税金資産	946	987
差入保証金	5,035	4,990
その他	1,470	1,403
貸倒引当金	△37	△37
投資その他の資産合計	83,549	85,579
固定資産合計	142,724	145,084
資産合計	203,318	201,190

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,273	7,833
1年内返済予定の長期借入金	22	4
未払法人税等	3,033	2,441
賞与引当金	4,305	3,628
災害損失引当金	473	391
資産除去債務	0	—
未払金	10,386	8,151
レンタル品預り保証金	8,565	8,495
その他	7,036	7,353
流動負債合計	42,097	38,299
固定負債		
長期借入金	197	3
退職給付に係る負債	5,271	5,226
資産除去債務	864	871
長期預り保証金	1,141	698
繰延税金負債	2,197	2,415
リース債務	6	1
固定負債合計	9,678	9,216
負債合計	51,776	47,515
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	11,110	11,111
利益剰余金	119,146	120,473
自己株式	△3,389	△3,176
株主資本合計	138,220	139,762
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,902	10,044
繰延ヘッジ損益	0	1
為替換算調整勘定	482	524
退職給付に係る調整累計額	3,591	3,015
その他の包括利益累計額合計	12,977	13,585
新株予約権	23	10
非支配株主持分	321	315
純資産合計	151,542	153,674
負債純資産合計	203,318	201,190

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	91,727	95,078
売上原価	50,756	52,898
売上総利益	40,971	42,180
販売費及び一般管理費	37,047	37,488
営業利益	3,924	4,691
営業外収益		
受取利息	137	179
受取配当金	267	238
設備賃貸料	69	52
受取手数料	145	150
持分法による投資利益	722	767
その他	462	599
営業外収益合計	1,805	1,987
営業外費用		
支払利息	0	0
設備賃貸費用	38	24
支払補償費	22	44
棚卸資産評価損	77	—
損害賠償金	46	—
その他	39	39
営業外費用合計	226	109
経常利益	5,503	6,569
特別利益		
固定資産売却益	1	46
投資有価証券売却益	100	67
関係会社有償減資払戻差益	170	—
特別利益合計	272	114
特別損失		
固定資産廃棄損	47	28
災害による損失	69	—
特別損失合計	117	28
税金等調整前中間純利益	5,658	6,654
法人税等	2,147	2,387
中間純利益	3,511	4,267
非支配株主に帰属する中間純利益	20	18
親会社株主に帰属する中間純利益	3,490	4,248

(中間連結包括利益計算書)

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	3,511	4,267
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	△826	1,099
為替換算調整勘定	7	△14
退職給付に係る調整額	△463	△571
持分法適用会社に対する持分相当額	79	94
その他の包括利益合計	△1,202	607
中間包括利益	2,308	4,875
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	2,287	4,856
非支配株主に係る中間包括利益	20	18

(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメント毎の売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注3)	中間連結 損益計算書 計上額 (注4)
売上高						
クリーンサービス事業	38,980	—	—	38,980	—	38,980
ケアサービス事業	7,243	—	—	7,243	—	7,243
ミスタードーナツ事業	—	28,929	—	28,929	—	28,929
その他	7,206	2,234	5,984	15,425	—	15,425
顧客との契約から生じる収益	53,430	31,163	5,984	90,579	—	90,579
その他の収益(注2)	—	—	1,148	1,148	—	1,148
外部顧客への売上高	53,430	31,163	7,133	91,727	—	91,727
セグメント間の内部売上高 又は振替高	313	4	1,107	1,425	△1,425	—
計	53,743	31,168	8,241	93,153	△1,425	91,727
セグメント利益又は損失(△)	3,073	3,754	313	7,142	△3,217	3,924

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. 「その他の収益」は、事務用機器及び車両のリースから発生しております。

3. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,217百万円には、セグメント間取引消去22百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△3,240百万円が含まれております。

4. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメント毎の固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

なお、のれんの当中間連結会計期間の償却額及び当中間連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位: 百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当中間連結会計期間償却額	45	6	6	—	58
当中間連結会計期間末残高(注)	216	66	31	—	314

(注) 当中間連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高216百万円(訪販グループ)、2024年1月に取得した健康菜園株式会社ののれん残高59百万円(フードグループ)、2017年2月に取得したBig Apple Worldwide Holdings Sdn. Bhd. ののれん残高31百万円(その他)であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメント毎の売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注3)	中間連結 損益計算書 計上額 (注4)
売上高						
クリーンサービス事業	38,665	—	—	38,665	—	38,665
ケアサービス事業	8,011	—	—	8,011	—	8,011
ミスタードーナツ事業	—	30,058	—	30,058	—	30,058
その他	8,624	2,361	6,222	17,207	—	17,207
顧客との契約から生じる収益	55,301	32,419	6,222	93,942	—	93,942
その他の収益(注2)	—	—	1,135	1,135	—	1,135
外部顧客への売上高	55,301	32,419	7,357	95,078	—	95,078
セグメント間の内部売上高 又は振替高	308	1	1,062	1,371	△1,371	—
計	55,609	32,420	8,420	96,450	△1,371	95,078
セグメント利益又は損失(△)	2,572	5,229	368	8,170	△3,479	4,691

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. 「その他の収益」は、事務用機器及び車両のリースから発生しております。

3. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,479百万円には、セグメント間取引消去26百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△3,505百万円が含まれております。

4. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメント毎の固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

なお、のれんの当中間連結会計期間の償却額及び当中間連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位: 百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当中間連結会計期間償却額	40	5	6	—	51
当中間連結会計期間末残高(注)	228	86	19	—	334

(注) 当中間連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高228百万円(訪販グループ)、2024年1月に取得した健康菜園株式会社(現株式会社ボストンハウス)ののれん残高53百万円(フードグループ)、2017年2月に取得したBig Apple Worldwide Holdings Sdn. Bhd. ののれん残高19百万円(その他)であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。